

ワクワク新聞 第150号

発行日：
平成30年4月1日(日)
発行者：
若林ひろき 品川区議会議員



しないよう高齢者懇談会やほつとサロン活動などへの参加や適切な専門機関につなげる。

シヨンで、地域課題の抽出と解決に向けた話し合いを進め、包括的・継続的な支援体制の整備を進める。

「削る」練習をする
【書く力】(池上彰・竹内政明)
朝日新書)その6

やほつとサロン活動などへ
なども含めた複合施設を
検討しており、地域共生
社会の理念にも資するも
のと考えている。

区議会質問より

待機児童ゼロへ

【問】乳幼児人口と認可保育園を希望する保護者が増えている。待機児童解消の今年の見通しと今後の定員拡大の見込みは。

【答】現時点では0歳児、3歳児の待機児童はほぼ解消する見込み。1歳児不承諾は、新規開設園の空きスペースの活用や認証保育所等の案内をしている。今後は、毎年八百人から千人程度の拡大が必要と見込んでいる。

受動喫煙問題

区内全域で、マナーアップの観点から啓発事業を来年度より新たに実施する予定である。望まない受動喫煙を防止するための対策を適切に進めているよう準備・対応していく。

ひとり暮らし 高齢者のために

【問】高齢者、障がい者、子ども等を地域で支え合う地域共生社会への取り組みへ、モデル事業の実施を。【答】分野ごとの個別支援制度は成熟してきているが、制度のはざまを埋めるために、公的支援については縦割りから丸ごとへの転換、また、区民や地域も地域づくりに参画することが求められている。本人を中心に関係機関の連携や地域の支え合いを基盤にした地域づくりを推進していく。

これまで以上に地域との結びつきを強める制度になるものと考える。

保護者や地域の方々へは、十分な情報提供や町長会議での説明、丁寧な対応に努め、コミュニケーション・スクールなども用しながら、理解を深めよう取り組んでいく。

ちょっといい話

子どもに考えさせるのは家庭。相づちを打ってたくさん話をさせることが重要です。そして、家事を教えてください。家事を手際よくできるようになると、時間を有効に使えるようになります。(開成中・高校長、柳沢幸雄さん)

うちの80歳近くの編み手さんは、70代から始めて腕を上げ、今一番早くきれいに編む。昔なら50歳になればあと10年で定年だったが、今はあと30年ぐらいあるかもしれない。新しいことをいつも学ぶ姿勢を持ち続けたい。(気仙沼ニッティング社長・御手洗瑞子さん)

【問】屋外の受動喫煙防止の強化を。
【答】パートイシヨンは可能な限り設置する考え方

【問】町会・自治会、民生委員、高齢者クラブなどの地域における見守りや支え合いを充実し、孤立

の活性化の方向性は、地域のにぎわいや防災機能の

強化、子育て支援や福祉なども含めた複合施設を検討しており、地域共生社会の理念にも資するものと考えている。

学校選択制の見直し

【問】隣接する学校を選択できるようにする見直しのメリット、デメリットは。保護者や地域の理解促進を。

【答】保護者から評価の高い選択制を維持しつつ、遠距離通学がなくなることで、登下校時の安全確保が図られると考えられる。また、「地域とともに」の趣旨に沿ったものであり、にある学校づくりの趣旨に沿ったものであり、これまで以上に地域との結びつきを強める制度になるものと考える。

くらはずです。(つづく)

簡潔な書き方で、私がお手本にしている文章の一

つに井上康の「海辺」という詩がある。無駄なことを一切書いてないんですね。とすれば、戸板康二さんの文章でしょうか。「林家三平さんが、車を運転して、ついスピードを出し過ぎて、つかまつた。窓から首を出して、『三平です』といつたら、『それがどうした』といって、罰金をとられた』。この文章も、「どこで」「も」「いつ」も書いていない。「三平です」と言えば許してもらえると思つた」という補足もしない。

「警官」という言葉さえ出てこない。「がつかりした」とか「アテが外れた」とか「落ち込んだ」という話もない。でも、情景が目に浮かぶし、話しの面白さが伝わる。事実だけを、ポンと書く。書いては削りを繰り返しているうちに、だんだん余計な贅肉が見えてくるはずです。(つづく)